

林業先進国欧州三カ国を視察 平成28年9/25 ~10/2

フィンランド・ラトビア・オーストリア

森林は、木材の生産だけでなく風水害防止や水源涵養、温暖化防止等多面的な機能を持っています。福岡市の面積の40%を占める森林は荒廃が進み、その多面的機能が失われつつあります。森林対策は市民に密接な喫緊の課題です。福岡市議会議員で結成された森林・林業・林産業活性化促進議員連盟の会員である大原議員他5人と林業関係の民間企業から4人、計10名の視察団は林業先進国である欧州三カ国の視察を行ってまいりました。



平坦な土地に広がる森

フィンランドは国土が平坦なため森林での作業に大型の機械が導入し易く、作業コストが日本の2割程になることから木材単価も安く、日本の住宅会社が現地に建築資材の工場を設け日本に向けて輸出しても十分採算が合うとのことです。日本と同じで森林の小規模所有者が多いが行政機関と森林所有者連盟とが所有者の森林をしっかり管理していることで計画的・安定的に森林事業が実施され所有者に利益還元されています。

オーストリアの森林は日本と同じように急傾斜地が多いがタワーヤーダー等ワイヤーを使って搬出するなど機械化が進みコスト削減だけでなく人身事故も減少しているそうです。森林バイオマスエネルギーの活用が盛んで、総エネルギー消費の30%を占めるまでになっています。木材は加工所で出る端材まで無駄なく活用されて電気や温水が地域に供給されているとのことです。

欧州では木材が部材だけではなく、CLT(直交積層材)に加工され軽くて強度や断熱性に優れ工期も短いことからコンクリートを殆ど使わないCLTの高層ビルが建ち始めています。2020年開催の東京オリンピックのメインスタジアムもこの木材加工技術が取り入れられるのではないのでしょうか。



機械化が進んだ作業

福岡市は28年度レーザーによる背振山系の測定を行い山林の地形や樹木の種類、本数など細かくデータを解析し、長期森林管理計画を作成します。森林資源を活用するためには機械化も不可欠ですし、それには搬入搬出できる林道が必要です。平成5年広域森林組合に立ち上げられた早良広域基幹林道協議会(会長=大原市議)の活動により平成30年度完成を目指し工事が進められています。

林業先進国の視察を終え、林産業の活性化は勿論、森林のもつ公益的機能の維持・増強による地域発展に資するためには現状を見直し行政と森林組合、森林所有者が協力・協働で取り組むべきではないかと考えています。



国内でもCLTを利用した建物が建設されています。写真は福岡県初のCLT工法で那珂川町に建設中の社屋。

地域交流センター 四箇田団地余剰地に建設

早良区中南部の文化交流の拠点としての地域交流センター建設計画が地域住民の意見を生かしながら進んでいます。H28年度 基本計画作成中、四箇田小学校横に決定 H29年度 地質調査、用地取得 H30年度 設計～建設 H33年度 完成予定

四箇田小学校西側に決定。早良体育館と合わせて利用の幅が広がります。



寿々の会バスハイクでも最新のなみきスクエア(千早、東区交流センター)を見学しました。音楽・劇に対応した防音設備のホールや図書室などが計画されています。アクセス向上に公共交通の整備も要望しています。

もっと快適に! 室見川緑地公園整備

散歩やジョギングなど健康維持と癒しの場として多くの市民から親しまれている公園にいろいろな要望が寄せられています。その一つ、未整備だった外環状下の遊歩道は28年度中に完了します。



自然につつまれて生きる! 背振山系の今!

多くの学校の校歌にうたわれている背振山系、すそ野に広がる早良平野。邪馬台国は福岡に!とロマンを掻き立てられる吉武高木遺跡他数々の貴重な遺跡も見過ごされて関心も薄れてしまいました。遠くに見る山々は美しく心とまされませんが、里山や田畑、そこに暮らす人々の生活は今どのようなになっているのでしょうか? 豊かな自然環境と調和してこそ福岡市の目指す"住みたい街・住み続けたい街"であると考えます。

大原議員は9月議会に於いて次の3点について質問を致しました。

1. 本市の弥生時代の遺跡の認識と観光資源としての活用について
2. 早良区南部地域における生活交通対策について
3. 市街化調整区域の土地利用規制緩和について

質問 1

福岡市は弥生銀座と言われる程、弥生時代の貴重な遺跡が沢山あります。早良平野に於いても、吉武高木遺跡、有田遺跡、藤崎遺跡、野方遺跡等々あちこちにありますが、市民の関心は低く、地元の人さえ知らない状況です。特に吉武高木遺跡は日本で最も古い三種の神器が出土し、また有田遺跡からも最も古い絹の織物が出土したことから、邪馬台国が九州北部との説も現実味を帯びてきました。このようにロマンを湧き立てる弥生遺跡をもっと市民に知っていただき、更に観光資源として活用すべきだと思いますが、今後の取組についてお尋ねします。

答弁 1

弥生遺跡は大陸との交流を物語っており、魅力ある資源として磨き上げていく必要がある。現在、歴史公園として整備中の吉武高木遺跡は、市民に歴史と自然に触れあってもらうように進めており、これからも市民に身近に感じられる遺跡整備を行うように努めるとともに観光資源としても活用していきたい。

質問 2

人口減少が進む早良区南部は市街化調整区域や農業振興地域その他様々な土地開発に関する規制があるために新たに家を建て転入するのが難しい地域になっています。過疎化対策として本市は今年度、指定既存集落での土地利用の規制緩和が行われましたが、もっと踏み込んだ規制緩和と土砂災害指定地域における家の建替えに対して助成金等の手立てが必要ではないか。

答弁 2

今後とも、地域の実績を十分に踏まえながら、地域資源を活かした地域振興や防災対策の観点から、市街化調整区域における自然環境の保全と地域の活性化について、規制の適切な運用と必要な対策の検討を進め、人と環境と都市活力の調和がとれた街づくりに取り組む。

質問 3

早良区南部地域は高齢化や人口減少が進み採算面から生活交通が休廃止され住民の生活に多大な影響を及ぼしている。バスの休廃止対策に市が補助金を出して運行している路線も住民の希望に沿うものではない。今後住民の声を反映した移動手段を確保していくことが重要である。現在進められている対策と今後の生活交通の確保はどうなっているのでしょうか?

答弁 3

生活交通の確保はますます重要性が高まっていくと考えている。地域の声や議会の意見を聞きながら総合的に生活交通の確保に努めていく。現在、脇山支線の見直しと西地区へのデマンド交通システム導入が検討中です。



整備が進む吉武高木遺跡(イメージ)と出土品



デマンド交通 現在西地区の住民と協議中 アンケートを実施運行日や運航ダイヤ、車両について検討中です

